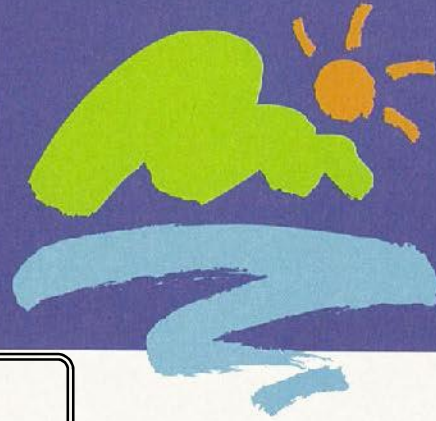


DATE: 令和 8年 6月 22日



## 三六災害慰霊献花式のお知らせ

【概要】 昭和36年(1961年)6月29日に長野県下伊那郡大鹿村で発生した大西山の大崩壊では、流出土砂により39戸の家屋が倒壊し42名の犠牲者をだしました。また、当時の小渋川砂防出張所の職員6名も崩壊した土砂に巻き込まれ犠牲になりました。例年6月に、殉職した職員とこの災害で犠牲になられた方々のご冥福を祈り、当時の出張所敷地跡に建立された慰霊碑と大西山公園内の大鹿村慰霊碑に、献花・焼香を行っています。今年度の献花式をご案内します。

【日時】 令和8年6月29日(月) 10時~11時  
※小雨決行ですが、天候等により急遽とりやめになる場合がございますので、  
事前に、小渋川砂防出張所(0265-39-2301)へご確認をお願いします。

【場所】 長野県下伊那郡大鹿村大河原地先 慰霊碑前(別添地図参照)

【次第】 10:00 ー 開式の辞、概要説明  
10:05 ー 事務所長挨拶  
10:10 ー 大鹿村挨拶  
10:15 ー 献花  
10:30 ー 閉式の辞  
大西山公園内 大鹿村慰霊碑へ移動  
10:40 ー 献花・焼香  
11:00 ー 終了・解散

慰霊碑付近に駐車場はございません。小渋川砂防出張所へ駐車していただきますようお願いいたします。  
小渋川砂防出張所から慰霊碑へは約200m、徒歩3分です。

(小渋川砂防出張所所在地 長野県下伊那郡大鹿村大字大河原892)

### 【添付資料】

位置図、慰霊碑詳細(資料1) 大西山の大崩壊(資料2)

### 【取材について】

1. 配布先  
駒ヶ根記者クラブ、伊那記者クラブ、飯田市記者クラブ
2. 問合せ先  
国土交通省中部地方整備局 天竜川上流河川事務所  
小渋川砂防出張所長 竹下 宣考(たけした のぶたか) TEL:0265-39-2301



慰霊碑

小渋川砂防出張所から慰霊碑へは約200m、  
徒歩3分です。

(小渋川砂防出張所所在地 長野県下伊那郡大鹿村大字大河原 8 9 2)



↑  
小渋川

位置図



小渋川砂防出張所



裏面



大鹿村大河原にある自我作古の碑

### 「自我作古」

我自ら昔を回想し、古い事例にとらわれることなく、独創によって新しい住みよい地域を、そして社会を開くことが必要である、ということ



豪雨此地を襲ふ山容忽ち変し  
西面は断崖と奈り奔流する泥  
土警戒中の建設者職員六名を  
呑む 時に昭和三十六年六月  
二十九日午前九時なりき  
爾来六春秋今や復旧成りに記  
念碑の建立を見るここに井口  
今井洋子 太田利夫 中島功  
吉田紀六 南坂千恵の芳名を  
刻し永へにその遺烈を讃へ以  
てその霊を慰め併せて治山治  
水の完璧を祈念しかかる梅の  
再び無からん事を冀う

昭和四十二年六月二十九日  
天竜上流改修期成同盟会  
会長松井卓治撰〇書



旧小渋川砂防出張所跡地の慰霊碑

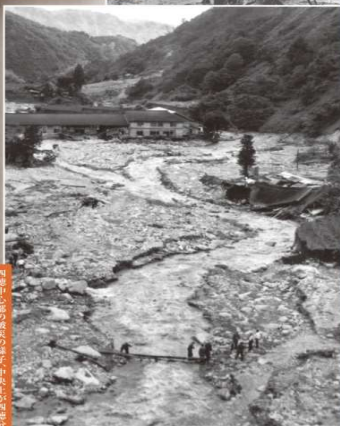


大崩壊によって流れを変えられた川、土砂の猛威を記した伊那谷の災害。

三六災害の大きな特徴となっているのが、大規模な土砂災害です。標高3,000m級の山々が連なる2つの山脈にはさまれた谷の中央を天竜川が流れる地形、そして脆弱な地質を持つ伊那谷を集中豪雨が襲いました。このため、いたるところで、崖崩れや地すべりなどの土砂災害が発生しました。



小沢橋下流で多量の土砂により家屋が埋没(大鹿村)



伊那谷の被災状況(大鹿村) 伊那谷の被災状況(大鹿村) 伊那谷の被災状況(大鹿村)

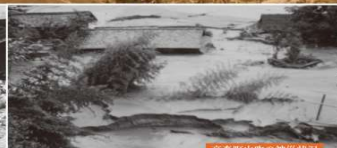


大西山が崩壊し、土砂が土がった瞬間(大鹿村) (中村幸明氏撮影)

小沢川の流れを変えた大西山の大崩壊現場(大鹿村) 中村幸明氏撮影



大西山の大崩壊(大鹿村)



高森町山吹の被災状況



三輪川から流出した土砂に埋った家屋と水田(伊那市)

最大の悲劇といわれる大西山の崩壊、災害史上まれに見る惨事として記憶された。

天候も回復した6月29日午前8時30分頃、大西山で、小規模な崩壊が発生しました。これが大西山の大崩壊の始まりでした。9時10分頃、大きな轟音とともに崩落した石や土砂が大河原中心部を襲いました。高さ450mから落下した厚さ15m、幅500mの岩塊は厚風が刮れるように崩れ落ち、大量の石や土砂は、小沢川の堤防よりもはるかに高い山津波となって対岸の家屋に押し寄せました。

S36.6 三六災害

大西山の復興 被災



昭和36年梅雨前線による豪雨は伊那谷全域に大規模な災害をもたらしました。大鹿村では死者行方不明者55名・負傷者642名、農地・山林・道路・堤防・住宅などが被害をうける大災害になりました。このとき、大西山の斜面が幅500m、高さ450mにわたって崩壊しました。約320万m<sup>3</sup>の土砂と岩石が多くの住宅を破壊し、水田を埋没させ、膨大な土砂でせき止められた小沢川が氾濫しました。

復興



大鹿村では、三六災害以前より幾度も山崩れによる土砂災害が発生していました。そのため、昔から防災事業が行われてきた場所でもあります。昭和12年、大鹿村に内務省名古屋土木出張所小沢砂防工場が設置され、直轄砂防事業が始まりました。また、長野営林局は昭和25年から小沢川で治山事業を始めました。地域住民は36年の大災害を始めとした多くの土砂災害に苦しめられてきましたが、治山・砂防部局と地域住民の連携・協力により、大鹿村は復興してきました。

環境整備



人々の生命と財産を守る防災事業では、南アルプスの恵み、生き物との共存、文化・風景など、地域の自然と豊かな環境との調和に配慮しています。

現在



慰霊



慰霊碑 (大西山の崩壊で殉職された建設者職員の慰霊碑)

大西山の崩壊による被災者の霊を慰めるため、慰霊碑などが建てられています。

130種3000本の桜が咲く大西公園は、南信州を代表する桜の名所です。なかでも、春の残雪の赤石岳を眺めながらのさくら祭り、お盆の夏祭りはひとときわにぎわいを見せます。また大河原では、生態観察や水遊びなど、自然とのふれあいの場として河川敷を整備し、村内・村外の総合学習などに利用されています。